

オーストラリアの多様性を理解するための調べ学習

広島県立安芸府中高等学校

1 活動概要

本校では国際科2年生が毎年8月下旬に10日間の日程でオーストラリアを訪れ、ホームステイや姉妹校との交流を行っている。その事前学習として、国際科の独自科目「地域研究」でオーストラリアの地誌・文化・社会について自らがテーマを決め、インターネット・文献・新聞記事を手がかりに課題の設定と解決策を提案するため1600字程度のレポートを作成する。そして、4グループに分かれて発表会を行い、選出された代表が三重大学とのテレビ会議に臨んで講評を仰ぎ、意見交換を行う。三重大学のオーストラリア留学・旅行経験者から貴重なアドバイスを受けることもある。

生徒の取りあげるテーマは衣食住などの文化、スポーツ、環境問題、少数民族の人権、日豪関係の歴史など多岐にわたっていて、事前学習の内容としてもきわめて重要なものが含まれている。オーストラリア研修旅行とその事前の取り組みは「持続可能な社会」の実現をはかるための課題を発見し、議論を進めながら共同的に解決を探っていく「ESD」の視点に立った内容となっている。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

オーストラリア語学研修旅行は国際科最大の行事である。これまでの授業で培ってきた英語によるコミュニケーション能力を実践的に試す場であり、さらに国際理解を深め、自らが課題解決のために主体的に行動できる力を育てる場でもある。「地域研究」は日本語によるプレゼンテーション能力を高めるための授業であるが、英語の表現力をつけていくためには豊かな日本語の表現力も求められることを学んでいく。

オーストラリアと日本の関係は、第二次世界大戦、白豪主義政策、捕鯨をめぐる摩擦などにみられるように、いつも平和的な関係ばかりではなかった。調べ学習は素顔のオーストラリアを知り、重要なパートナーとして友好的な関係を持続・発展させるために貢献する主体の形成をめざす授業である。

(2) 指導のポイント

- ☆ 調べ学習を通じてオーストラリアにおける先進的な環境問題への取り組みに関心を持たせ、深刻な問題である「フロンガスによるオゾン層の破壊」「地球温暖化とオーストラリアの乾燥化」などを解決していくため、日本の果たす役割について多面的・総合的に考えさせる。(付けたい力1)
- ☆ 調べ学習を通じてオーストラリアの歴史・文化に関心を持たせるとともに、内外でプレゼンテーションや議論を通じて文化の違いを理解・尊重する態度を育てる。(付けたい力2)
- ☆ オーストラリア語学研修旅行後、調べ学習やテレビ会議で学習した内容が実際の現地における体験で検証できたか、あるいは深まったかを記録するために「感想文集」を作成し、来年以後の研修旅行、調べ学習に活用するための課題を整理する。(付けたい力3)
- ☆ インターネットを使っでの情報収集に偏ることなく、文献、テレビ番組、新聞や聞き取り(ALT、オーストラリア留学経験者)などを通じて、信頼性の高い情報を集めるシステムを構築する。(付けたい力3)

3 学習指導案

◎本時の授業…本授業は「地域研究」のほぼ1学期すべての時間を使って展開する。オリエンテーションにはじまり、テーマの決定、資料の収集と選別、1600字要旨の作成、発表会、そして三重大学とのテレビ会議で終了する。地歴公民科の4名で担当する。生徒は4つの班を構成する。

(1) 本時のねらい

- 多様なオーストラリアの社会・文化への理解を深め、自ら探した課題を解決していく態度を身に付ける。
- 自らの意見をわかりやすくプレゼンテーションに表現し、他者の意見を取り入れながら日本語による豊かなコミュニケーション能力を養う。

(2) 対象学年 第2学年

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	【オリエンテーション】 「クイズ・オーストラリア (30問)」に解答し、自己採点を行う。 次の時間に資料を配布し「オーストラリアのプロフィール」を担当者が解説する。	得点を競うのが目的ではなく、関心のあるテーマを絞り込むためのオリエンテーションとして位置付ける。	得点は評価の対象としない。
自力解決	関心のあるテーマをいくつかあげて、担当教員や班員に相談しながら研究したいテーマを決定する。	訪問地のシドニーに限定せず、オーストラリア全域をテーマの対象とする。	将来も発展的に研究できるテーマを考えている。
集団解決	1 おもにコンピュータ室と図書室を使い、テーマについて調べ学習を進める。 2 完成した1600字要旨を教員も含めた班で読み合わせ、誤字、内容の誤り、わかりにくい表現を修正する。 3 班ごとに発表会を開き、生徒相互で採点し合い、最後に反省会を行う。	担当教員がテーマを選んだ理由について聞き取りを行い、調査や資料収集についてのアドバイスをする。 あらかじめ評価用紙を配布し、採点基準を確認する。教員も採点に加わる。	テーマを選んだ動機をはっきり述べている。 しっかりした資料の解釈ができています。
まとめ	班別発表会で選ばれた8名が、三重大学とのテレビ会議で発表を行う。講評・感想を受ける。	翌週の時間で今回の学習の成果と課題を話し合わせる。感想文集作成の打ち合わせを行わせる。	

4 生徒の反応 (授業後の感想等)

発表するときのポイントとして自分が伝えたいことは何か、どんな表現が適しているかを考えたうえで、よりわかりやすくするためにテーマ別で分けたり、1つのテーマをいろんな角度から見たり調べたりするとよいことを学んだ。三重大生の意見に共通しているのは、調べたことはすべてが本当とは限らないし、実際に経験することで新しい発見も想像以上の驚きもあるということだと思う。調べたことについて、常に疑問をもって話し相手を意識することで、より一層深いものになることを知った。ありがとうございました。

